

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和 4 年度（公財）日本ハンドボール協会競技規則及びJクイックハンドボール競技規則(U-12)によって行う。

2 競技会場

(1) 競技会場・コートのはさは、以下のとおりとする。

○沖縄県立武道館アリーナ棟（39m×20m）2面

○豊見城市民体育館（40m×20m）2面

※ゴールポストの固定、既存ラインの関係です。

(2) 別紙「会場使用上の注意」（沖縄県ハンドボール協会より）を遵守して行動する。

3 種別及び参加人数

参加人数(ベンチ入り)は、役員5名以内・選手20名以内の合計25名以内とする。

4 競技方法

競技方法は、トーナメント戦を行う。

5 参加資格

参加資格は、実施要項のとおりとする。臨時トレーナーについては、別に定める。※16参照

6 競技日程・時間

(1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。

(2) 競技時間は、「前半15分ー休憩10分ー後半15分」とする。

延長戦を行うのは、決勝戦のみとする。

→（第1延長戦のみ行い、【トス～第1延長（前半5分ー休憩1分ー後半5分）～7mTC（3名）】

決勝戦以外の同点は、7mTC（3名）を行う。

(3) 競技時間の表示は、加算式の電光表示板を使用する。

(4) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザー・ホーン、または笛で行う。

(5) ①退場者の番号や時間は、記録席上に記録用紙で表示する。

②入場の判断は、チームの責任である。記録席から合図することはなく、問いかけられても回答しない。

③退場時間は、2分間とする。

7 大会使用球

大会使用球は、（公財）日本ハンドボール協会検定1号球を使用する。

【トーナメント戦】モルテン 【交流戦】ミカサ

8 トス・ユニホーム

(1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。その際、チーム役員の服装（色）及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5)、16(1)

(2) ユニホームの確認は、第1試合は試合開始30分前とし、第2試合以降は、前試合の前半終了後ハーフタイム時に記録席前で行う。その際、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。

ユニホームの希望調整が見つからない場合は、チーム番号の大きいチームが変更する。

- (3) ユニホームについては、下記のとおりとする。条件に満たない場合は当て布等で覆わなければならない。その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
- ① 番号の大きさ（高さ）は、胸10cm以上・背20cm以上とする。
 - ② 基調色として、半分以上が同色でなければならない。例えば、左右上下対称色を用いたものは認めない。
 - ③ メーカーのロゴは、20cm²以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
 - ④ 背中に氏名等の文字表記をする場合は、大きさ（高さ）10cm以内とする。
 - ⑤ 試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして、競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合、異なる番号でも問題ない。交代地域にいる別のプレイヤーのユニホームと交換することも許される。
 - ⑥ チームは、ユニホームとして、シャツ・パンツ・ソックスの色を統一すること。なお、ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。
- (4) ゴールキーパー
- ① チームで同色とする。
 - ② コートプレイヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。
- (5) 身につけられるものについて
- ① 短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ（アンダーウェア）は、短パンツの基調色か同色とし、チームで統一していれば着用できる。
 - ② ユニホームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。
 - ③ 長袖のアンダーシャツ・アーム（ロング）スリーブ等は、ユニホームに使用されている基調色と同色であれば着用できる。
 - ④ ふくらはぎのコンプレッション（加圧）サポーターは、靴下と同色であれば着用できる。
 - ⑤ 複数の部位を覆うサポーター等やメーカーのロゴが20cm²以上ものは着用を認められない。
 - ⑥ 金具入り等、敵や味方を問わず他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認めない。
 - ⑦ **眼鏡及びスポーツゴーグル等を使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。**
ただし、金属製のフレーム等については使用できない。
 - ⑧ 詳細は、「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。
- (6) 眼鏡・スポーツゴーグル
眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。
ただし、金属製のフレーム等については使用できない。※8-(5)-⑦

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 事前に申込された登録証のあるチーム役員・選手のみが、競技に参加・出場することができる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名を含むチーム役員4名以内、選手20名以内の合計25名以内が入ることができる。
- (3) **チーム役員・選手の変更については、12月20日（火）までに提出されたものを最終決定とする。**
- (4) ① トスの際には、TDに登録証を提出する。
未提出、または不備（写真添付なし等）があった場合は、試合に出場・参加することはできない。
② TD及び審判員が、試合前に交代地域にて、チーム役員・選手及び登録証を確認する。
試合中は、TDが登録証を管理し、試合終了後にTDから両チーム代表者に返却される。
③ 失格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・D・Eカード」を着用し、試合終了後に返却する。チーム責任者は、「Aカード」を着用する。

10 公式記録用紙

- (1) **記録は、Jクイックハンドボール公式記録用紙を使用する。（ランニングスコアシートは、使用しない。）**
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」を責任を持って確認し、サインをする。
- (3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域 ☆交代地域：「3.5mラインを始点とし、センターラインから12mの範囲まで」

- (1) 各チームのボール等の用具は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。
競技開始後は、ボールに触れることを含めて、ボールの使用は禁止する。
- (2) 飲料水は、飲み口の細い容器を使用し、コップの使用を禁止する。
感染予防対策として、ペットボトル飲料水をチーム内で回し飲みすることも禁止する。
- (3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。
詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。
ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。
トスの際にユニホームの色が確定した後に、役員の服装の色を確認する。
- (6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。
ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。
- (7) 観客席等からの選手への指示や審判のジャッジに対する暴言等は厳禁とする。

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトは、1試合で前半1回と後半1回の合計2回の請求ができるが、延長戦では請求できない。
- (2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。
請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならないと躊躇することは許されない。ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TDが直接受け取ってよい。

13 休憩時間(ハーフタイム)

- (1) 前半が終了し、後半に向けてコートを移動する際には、前半使用した椅子(ベンチ)を消毒し離席する。後半の終了後にも同様に消毒を行う。なお、消毒液・ペーパータオルなどは、沖縄県ハンドボール協会では準備する。
感染予防対策を施した「新しい大会の運営」に全チームが相互協力する。
- (2) 休憩時間のコート使用は、次試合チームの練習に使用する。練習中は、試合中のチーム関係者と接触しない。
練習に使用できる時間は、「9分間」とし、休憩時間の残り1分間は、コート整備等の時間とする。

14 テクニカルオフィシャル(マッチオフィシャル:MO、テクニカルデレゲート:TD)、裁定委員会

- (1) 本大会は、各試合にTD2名を配置する。(全試合、そのうち1名はMOを兼務する。)
TDは、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (2) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長とする。
なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 次の試合のチーム役員・選手フロアへの入場

- 次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了するまで、また、試合終了後に両チームの挨拶が終了するまでは、フロアへの入場を禁止する。
競技中に次試合のチームが、フロアで練習をしたり、試合を観戦したりすることがあってはならない。

16 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。
トスの際には、必ずTD・審判員に申告する。席は、交代地域(ベンチ)から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。
選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療・手当などを受けることができる。
- (3) TDが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

17 表彰

- (1) 全競技の終了後、優勝・準優勝の男女各2チーム：計4チームを対象とし、表彰（一部は紹介のみ）を行う。
- (2) **3位の表彰は、準決勝の試合終了直後に行う。**
- (3) 個人（優秀選手）の表彰対象者は、男女の優勝チームから3名・準優勝チームから2名・3位の各チームから1名の合計7名をチーム責任者の推薦により選出する。

18 感染症対策

- (1) 別紙「新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」（九州協会HP掲載済）を参照し、大会前から継続し、大会期間中も、うがい・手洗い・手指消毒等、健康状態に十分配慮する。
- (2) コート以外での施設内では、必ずマスクを着用する。また、施設内だけでなく、宿泊ホテルでも消毒や検温ができる準備を各チーム・各自で行う。
- (3) 自己管理・感染症予防のために宿泊ホテル滞在中は、各室でも個人的に感染予防に積極的に取り組む。大会前から練習中はもとより、生活全般で体調管理に留意する。
- (4) **沖縄県の行政指針により、大会参加前には、PCR検査または抗原検査を受け、自らの陰性を確認した上で大会に参加（来島）する。**
- (5) **滞在中の万一の事態に備えて、「抗原検査キット」を各チームで準備し、来島することが望ましい。**
- (6) **競技中（試合中）、チーム役員は、必ずマスクを着用する。ベンチで待機する選手は、攻防で常に交代する選手を除き、可能な限りマスクを着用する。**
- (7) チーム役員は、感染症対策の責任者として、移動行程や会場での感染症対策の他、チーム関係者から発熱者や体調不良者が出た場合は、責任者の管理下でホテル待機、医療機関、検査機関の受診等の業務に対応する。
- (8) **滞在中にコロナ陽性となった者や発熱した者は、予定（予約）した航空便に搭乗できず、現地での延泊となる可能性があることを想定し、万一の事態に備えておく。**

19 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

20 試合の開始と終了

開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。

終了時は、コート中央に横1列で並んであいさつをし、その後、相手チームとすれちがいがいながら挨拶を交わすが、タッチや握手は行わず、相手側交代地域での役員へのあいさつは、しっかり距離をとり「礼」のみで行う。

21 観客席

- (1) 今大会は、スポーツ競技活動を通じた教育活動・社会活動の一場面でもある。
各チームの役員は、「競技上の注意」「新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」などを徹底させる。
- (2) **今大会は、選手エントリー数×2名の「人数制限を設けての有観客」（1チーム最大40名）で開催するので、入館希望者は事前に申込を行う。事前に申し込みを行っていない者の入館・入場は認めない。**
- (3) **入館希望者は、選手と同じように、健康観察シートを提出する。（2日間）**
- (4) **入館希望者の入場時間は、チーム役員・選手と同様に「試合開始2時間前」とする。ただし、入館時の受付で混雑が予想されるので、チーム役員・選手を先に入館させ、その後に入館の手続きを行う。また、試合終了後はチームで使用したエリアの椅子・手すりなどを消毒する。なお、消毒液・ペーパータオル（雑巾不可）などは、各チームで可能な限り準備し、感染予防対策を施した「新しい大会の運営」に全チームが相互協力する。**
- (5) 館内では指定された待機し、飛沫拡散防止のためラッパやホーン、声を出しての応援や指笛などは禁止する。
- (6) 入館を希望する事前の申し込みの中に「感染症対策責任者」をチーム責任者が任命し、チーム内の感染症対策を行う。「感染対策責任者」の任命は任意であり、チームの事情により「感染症対策責任者」を帯同できない場合は、チーム役員が業務を兼務する。
- (7) 「感染症対策責任者」は、移動中や宿泊ホテル内での感染対策の他、チーム関係者から発熱・体調不良者などが出た場合は、「感染症対策責任者」の管理下で宿泊ホテル待機や医療機関の受診などの業務に対応する。競技会場内では、チームが使用している観客席（荷物）の管理、使用した観客席や更衣室などの消毒を行う。
- (8) **未就学児（選手の兄弟姉妹）は、引率保護者の管理下で入館を認めるが、施設内での行動には、引率保護者が責任をもつ。その際には、「健康チェックシート」を提出する。**

22 申込チームの欠場（辞退）の場合

- (1) 欠場（辞退）による代替出場は行わない。
- (2) 試合記録は、欠場（辞退）のチームの不戦敗とし、スコアは10-0とする。
- (3) 競技日程・試合開始時刻などは、原則として変更しない。
- (4) 大会直前に欠場（辞退）が相次ぎ、競技方法に不公平が生じる場合は、新たな競技方法を検討する。

23 大会期間中に発熱者が出場合

- (1) 発熱・咳・咽頭痛などの症状を訴える役員・選手を確認した場合は、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、持参した「抗原検査キットで検査」を行い、医療機関・発熱外来などに相談する。
- (2) 上記（1）を訴えた役員・選手からの聴取により、移動中の座席が近くだったり、活動中に接触したり、対面して食事をしたり、ホテルで同部屋だったりするなどの者についても、その後の活動を中断させ、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関・発熱外来などに相談する。
- (3) 上記（1）（2）により、現地や帰宅後に医療機関を受診した場合、即座に検査結果が出ないことが想定される。発熱者に対して、チームが持参した抗原検査キットで「陽性反応」が出た場合、チーム内外に濃厚接触者が多く特定される可能性がある場合などは、チームとして、その後の参加（競技）を検討する。その際は、発熱者だけが抗原検査を行うのではなく、関係者全員が抗原検査を行うことが望ましい。

24 大会期間中の集団飲食について

- (1) 競技会場内での食事は、チーム内であってもソーシャルディスタンスを保ちながら、会話を控え、対面飲食を回避するなど、感染症防止対策に十分配慮する。（黙食の推奨）
- (2) 宿泊ホテルにおいて、チーム全員で飲食する場合（夕食・朝食）は、三密を回避し、多人数・長時間の飲食にならないよう、食事内容（個別のセットメニューで対応）も含め、施設側と十分相談する。

25 新競技規則変更の適用について

- (1) 「ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則」について適用する。
- (2) (1)の詳細は、JHAホームページ「2022 新競技規則 変更の概要 (2022年7月1日 IHF 施行)」ならびに「2022 (令和4) 年度 競技規則変更についての質疑に対する回答 (第一次)」を参照すること。
- (3) スローオフエリアは、使用しない。(Jクイックハンドボール競技規則<U-12>のため)
- (4) パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数は、「4回」とする。